

# 岩手・宮城内陸地震に関する 現地調査団の派遣について

平成20年6月14日午前8時43分頃、岩手県内陸南部（北緯39度01.7分、東経140度52.8分）の深さ約8kmを震源とするマグニチュード7.2（推定）の直下型地震が発生した。最大震度は、岩手県奥州市、宮城県栗原市の震度6強であった。7月30日現在、死者13名、行方不明者10名、重軽傷者450名、住家全壊28棟、住家半壊99棟の被害が消防庁より報告されている。気象庁は、この地震を「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」（英語名称：The Iwate-Miyagi Nairiku Earthquake in 2008）と命名した。

地震により、生活の根幹をなす電気や上下水道などのライフラインは寸断され、道路や河川などの土木施設にも甚大な被害を生じている。斜面崩壊や土石流による河川閉塞は15箇所のにほり、各所で天然ダムが形成されている。また、<sup>まつるべおおはし</sup>祭時大橋の落橋や<sup>あらとぎわ</sup>荒砥沢ダムの

大規模地すべりによる道路の寸断などは、各メディアで大きく取り上げられている。

道路管理技術委員会（北海道道路管理技術センターに設置）では、北海道の道路管理に資することを目的に、現地調査団（団長：三浦清一 北海道大学大学院教授）を派遣し、栗原市とその周辺の被害調査を行った（7月29日～8月1日）。現地では、斜面崩壊、地すべり、土石流などの地盤災害が多く確認された。なお、現地調査の詳細については、現地調査速報会の開催を下記のとおり行うとともに、ホームページなどを通して報告する予定である。

日時 平成20年9月17日 13時30分～  
場所 北海道大学 学術交流会館（定員約200名）



荒砥沢ダムの大規模地すべり



国道342号祭時大橋の落橋



国道342号矢櫃ダム付近の斜面崩壊



国道397号胆沢ダム付替道の斜面崩壊

『北の交差点』バックナンバーがご覧になれます。(PDF形式)

（財）北海道道路管理技術センター URL <http://www.rmec.or.jp/>

『北の交差点』とは…

古来、道が交わる場所では、人々の交流が生まれ、さまざまな文化が育ってきました。『北の交差点』というタイトルは、安全で快適な道路環境の創出を目指して、維持・管理に関係する「人」や「情報」が交流するところをイメージしています。

安全で快適な道路環境の創出を目指す技術情報誌

## 北の交差点<sup>®</sup> VOL.23

●2008年8月発行

●編集・発行／財団法人北海道道路管理技術センター

〒060-0807 札幌市北区北7条西2丁目20番地 東京建物札幌ビル6F

TEL 011-736-8577 FAX 011-736-8578

●制作・印刷／株式会社須田製版